

交流を深める日帰りバスツアー 木曽路「赤沢自然休養林・馬籠宿」訪ねる

会員間のふれあい交流を通して「輪・話・和」を育み、人間関係の繋がりを大切にすることが組織強化拡大へと繋がることを旨に組織活動を展開してきた。今年度も定期総会で確認した活動の一環として、7月11日、ふれあい懇親交流会を実施した。

7月上旬、西日本豪雨による被害が各地に出ている中、行事の実施が危ぶまれるのではと心配していたが、絶好の実施日和となった。

行き先は、信州・木曽路の「赤沢自然休養林」と中山道43番目の宿場町「馬籠宿」で、散策と森林浴が日頃の運動不足の解消と健康づくりの一役になればとの思いからの企画である。

参加者32名が名古屋市内の金山総合駅に予定時刻よりも早く元気に受け付けを済ませた。気持ちはすでに木曽路へ向いて、午前8時にバスは出発、中央自動車道・国道19号を経由して木曽路に向う。発車間もなく車中では参加者の会話が響き、「西日本豪雨災害による被害について一瞬胸が痛む、車中から被害に遭われた方、亡くなられた方にお見舞いとお冥福を捧げた。

予定時間に少し遅れ赤沢自然休養林に到着。赤沢自然休養林は、日本三大美林の一つで樹齢300～350年の木曽ヒノキの森で森林浴発祥の地。2006年に第1期セラピー基地の認定を受けた美林。林内では森林鉄道が運行され、車窓から爽やかな木立の森を眺めるとともに、山あいの小道を歩きながら森林浴と森林資料館、森林鉄道記念館などの施設を見学した。

昼食後は一路中山道の宿場町「馬籠宿」へ。古い町並みが復元され、石畳が敷かれ、坂道の両側には土産物店が並び、一般の住家にも当時の屋号表札が掲げられていた。また町並みの中間点には旧本陣であった藤村記念館（島崎藤村生家跡）があり、当時を思いふけることが出来た。

帰途の集合時間には全員が揃い一路名古屋へ。事故もなく無事終えることが出来、今回の行事を通して会員間の繋がりがさらに深まり、組織強化に繋がることを願っている。



